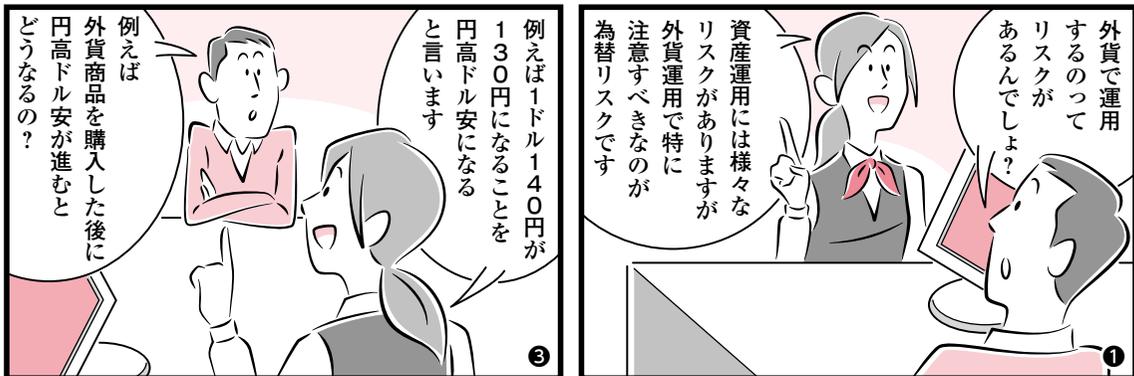


▼こんなトークを展開しよう



# 外貨商品提案時に説明する リスクについて理解しよう

ここでは、外貨商品を提案するにあたり押さえておくべき「リスク」について、お客様への説明トークとともに解説します。

ノット・アドバイザーズ 代表  
上村 武雄

## 1 為替リスク 経済のマクロ要因を 押さえることが必要

**為** 替リスクとは、外国為替相場の変動によって、円に換算した資産価値が変動するリスクのこと。「為替変動リスク」ともいいます。

日本の通貨である「円」と外国の通貨である「外貨」の交換相場である為替相場は様々な要因で変動します。そのため、外貨建て資産を保有していると、為替変動により円に換算した資産価値に損益が発生します。

**資産価値が変化しなくても円建ての時価評価が変動**

ここでわかりにくいのは、資産そのものの本質的な価値が変動しているのではないという点

です。資産価値を表記するため、為替相場の変化によるものなので、本質的な価値とは関係ありません。

しかし、資産自体の価値がまったく変化しなくても、表記するための為替相場が変動すれば、保有する外貨建て資産の円建ての時価評価が大きく変動してしまいます。

その結果、外貨が関連する資産は、資産そのものの価格変動に加えて、為替の変動がさらに上乗せされて変動することになります。

為替リスクの分だけリスクが大きくなるので、投資を検討するにあたって、為替リスクを想定しないです。投資することはありません。常にある程度、為替相場の見直しを念頭に置きながら投資行動を取らなくてはなりません。

円高（円の価値が上昇）になると、少ない円で多くの外貨を手に入れることができる反面、外貨建ての資産を円建てで評価すると資産価値は減少してしまいます。

円安（円の価値が下落）になると、外貨を手に入れるのに多くの円が必要になる反面、外貨建ての資産を円建てで評価すると資産価値は増加します。

例えば、1ドル＝120円のときに1万ドル分の外貨商品を購入するのに必要なのは120万円です。これが110円の円安になった場合、円に換算すると110円×1万ドル＝110万円となり、10万円の為替差損が生じます。

逆に、1ドル130円の円高になると、130円×1万ドル＝130万円ですから、10万円の為替差益が生じます。

**株価や金利などに比べ、動向の推察が難しい**

実際には、為替リスクの見直しを念頭に置く必要があるとは言うものの、為替相場はありとあらゆる要因で変動するので、その難易度は高まります。

また、この要因だけ押さえておけばよいということもなく、幅広い要因から大きな影響を受けるので、株価や金利などに比べて考慮すべきことが多く、動向を推察するのが難しいといえます。

ドルと円の関係で、一口に（ドル高）円安と言っても、米国内に起因するドル高要因で動いていることもあれば、日本に起因する円安要因で動いていることもあるので注意する必要があります。

また、その要因は、国家間金利差、貿易収支、物価変動、介入、政治要因、経済要因、地域紛争等々多岐にわたります。そのため、今後の為替動向を考えるにあたっては、これらの経済のマクロ要因を押さえておくべきでしょう。

外貨商品の提案にあたっては、対象となる通貨によって変動の方向や大きさが異なります。したがって、「こんなに大きく変動するとは思わなかった」とならないように、許容できるリスクなのかどうかをお客様がきちんと判断できるように、お客様としっかりコミュニケーションをとることが肝要です。

